



平成30年度 第2回 みみらんどセミナー 報告書

テーマ「きこえにくい子ども達の理解と支援」

- ☆ 実施日時 ☆ 平成30年6月28日（木） 15：10～16：40
☆ 講師 ☆ ばばクリニック 耳鼻咽喉科専門医 馬場陽子 医師



先天性難聴は、
約半数が遺伝子によるもので、残りの半数が妊娠中の感染症等が原因です。



「療育」とは…
補聴器や手話を使ってコミュニケーション能力を高めることです。親の難聴理解と協力を得るための指導が必要です。



「障害者総合支援法」や「難聴児支援制度」により、重度だけでなく中・軽度難聴者へも補聴器が支給されます。各自治体の福祉窓口へ！

難聴児の教育法

1. 手話法
2. 聴覚口話法
3. Auditory Verbal therapy
4. トップダウン方式
5. 二言語二文化教育
6. トータルコミュニケーション



人工内耳装用高校生の調査では、小学校就学時の理解語彙力が進路に影響し、大学進学者は、幼児期に培われる言語力が高い傾向がみられます。



重複障がいをもつ難聴児も多くいます(約半数)。自閉症スペクトラム障がい(ASD)特性重複例では、早期対応が遅れるとASD障がい特性が強まる可能性があります。早期支援が重要です。



通常学級で学ぶ人工内耳装用児の課題から見たポイントは…

1. FM 補聴システム等を活用する
2. 本人と家族の障がい認知の必要性
3. 教師の周囲の生徒への啓発とモデル提示
4. 本人への自己実現可能であることの指導支援をしつつ、切磋琢磨させ、個々の能力を育てましょう！

～参加者の感想から～

- ◇補聴器機は両耳装用が大切で、片耳難聴でも装用することが大切だと分かりました。
- ◇補聴器でも人工内耳でも、小さいうちは聴覚支援学校で学ぶ事が大切だと改めて思いました。